

北響かわらばん

2014（平成 26）年 11 月 10 日発行 No. 2

発行：北海道公立小中学校事務職員協議会

発行責任者 常陸 敏男

編集責任者 田中 邦彦

変わる全道研 北海道公立小中学校事務研究大会実行委員会引き継ぎ会議開催



10月23日（木）ホテルユニオンにて、第64回網走大会、第65回大会（運営：旭川市支部）の実行委員会、第66回釧路大会準備委員会と本部役員との引き継ぎ会議が行われました。次回大会は運営支部の地を離れ、ホテルライフオーで開催されるため、従来の大



大会運営とは異なることが予想されます。例年の引き継ぎ会議は、大会が開催された支部と次年度大会を開催する支部の2支部で行いますが、従来の大大会運営を予定している釧路大会準備委員会としては、網走大会実行委員会とも引き継ぎを行いたいという申し出があったことから、異例の3支部の引き継ぎ会議となりました。



会議は、常陸会長の挨拶に続き、網走大会駒谷実行委員長、旭川市支部梅津実行委員長、そして釧路大会準備委員会西山委員長より、それぞれ挨拶がありました。その後、網走大会南事務局長より大会の反省を含め概要の説明がありました。旭川市支部実行委員会吉田事務局長からは、準備状況と今までの大会と違いホテルライフオーで開催されることから、実行委員会もコンパクトにしメンバーもほぼ40代以下で構成され、若いパワーを大会運営で発揮したい旨が話されました。2016（平成28）年の開催となる釧路大会準備委員会藪本事務局長からは準備状況が話され、大会会場選定については釧路公立大学を検討されていることが報告されました



全体の会議が終了後、各実行委員会の各部に分かれて、それぞれの業務について細かい引き継ぎがおこなわれました。



北海道公立小中学校事務職員協議会には「会員専用」のページ（掲示板、全道市町村予算データ）があります。その閲覧には「ID」（ユーザー名）と「パスワード」が必要です。パスワード等の情報管理の徹底とホームページの積極的な活用をお願いします。

「ID」（ユーザー名）：74q7h

「パスワード」：gwh28

半角英数で英字はすべて小文字になります。

お礼のことば



第 64 回網走大会実行委員会 実行委員長 駒谷 和久

全道各地より、第 64 回網走大会にご参加いただきました皆様、2 日間の研修大変ご苦勞様でした。おかげさまで、約 500 名の仲間の皆様にお越しいただき、実行委員会一同心より感謝申し上げます。また大会運営にあたり、開催地の北見市およびオホーツク教育局、北見市教育委員会をはじめ多くの関係機関の皆様、そして大学の施設等をお貸しいただきました北見工業大学の関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

今網走大会は、大学施設等での開催となりました。会場の決定に際しては、駐車台数の確保、学生食堂の混雑の危惧等もあり、実行委員会としてもいろいろと悩みましたが、スムーズに大会運営ができたと思っています。ホームページを開設し皆様に事前に情報提供を行うなど準備してきましたが、大会運営にかかわり至らぬ点が多々あったと存じますが、実行委員会の取り組みに免じてお許しいただければ幸いです。

交流会でのオホーツク管内の事務職員有志による演奏、全道の仲間との交流楽しんでいただけましたか？交流会費については、高めの設定になってしまいましたが、210 名の皆様に参加いただき大変ありがとうございました。

過去の研究大会、そして今網走大会で私たちは、教育としての学校事務・子どもたちの生活の場としての学校を追究してきました。今研究大会の成果を学校に持ち帰り、一人ひとりが実践され、「北海道の学校事務」を更に推進していただけることを期待します。第 64 回網走大会へ参加いただきました仲間の皆様に心よりお礼申し上げます。来年、札幌でまたお会いしましょう。



ごあいさつ

次年度全道事務研はホテルライフオート札幌で開催します

第 65 回北海道公立小中学校事務研究大会 旭川市支部実行委員長 梅津 博昭



旭川市支部において全道事務研を開催させていただくのは、2000 年の第 50 回記念大会を開催して以降、15 年ぶりとなります。今、旭川市支部では、次期第 65 回全道事務研が今年度の網走大会のような素晴らしい研究大会となるよう、支部をあげて準備をすすめているところです。

また、旭川市支部では、新しい試みとして、次年度の大会会場を札幌市のホテルライフオート札幌とすることといたしました。

これは、全道協議会の意向（ライフオート札幌開催により適当な大会会場の確保ができること、交通や宿泊施設の利便性があり多くの大会参加者が期待できること、そして将来大会に適当な会場・宿泊施設のない支部においても大会開催が可能となることなど）並びに、2013 年度に実施された「全道事務研札幌開催に係る会員意向調査」の結果（アンケート回答者の 94%の会員が、札幌開催を検討すべきと回答）を受けたもので、旭川市支部としてこれらの主旨に全面的に賛同し決定をしたものです。

会員の皆様にはライフオート札幌開催の主旨をご理解いただきまして、多くの皆様にご参加いただき、大会を成功に導いてくださいますよう心よりお願い申し上げます。

ホテルライフオート札幌でお会いしましょう。心より歓迎いたします。

特別委員会紹介Part 1 ～北海道学校実務要覧編集委員会

みなさんのほとんどの学校にあると思われる「北海道学校実務要覧」。その編集を行っているのが北海道学校実務要覧編集委員会です。メンバーは本部役員を含めて9名です。年に3回札幌の(株)ぎょうせいに集まり、3日間缶詰になって編集作業をおこなっています。

委員長	木戸 勉(十勝:清水町立御影小学校)
委員	上野 正照(空知:滝川市立東小学校)
委員	加藤 正(石狩:江別市立大麻泉小学校)
委員	清川 康光(旭川市:北星中学校)
委員	菊地 隆男(胆振:登別市立鷺別小学校)
委員	加能 文康(後志:余市町立大川小学校)
会長	常陸 敏男(本部)
事務局長	橋本 正明(本部)
会計	小菅 真一(本部)



北海道学校実務要覧 追録 168・169号 編集内容

第1巻

- ・学校事務職員の職務の認知や定着化を求めた、「学校づくり」における協力協働の在り方や役割について(職務検討委員会答申)
- ・学校職員の旧姓使用について(資料)
- ・専従による休職手続きについて
- ・配偶者同行休業制度の制定について
- ・病気休暇の記載例変更と質疑応答集の追加
- ・職務専念義務免除の手続きについて

第2巻

- ・査定昇給制度の概要
- ・I Cカードに関わる通勤手当額の計算方法について
- ・再任用職員の諸手当の改定
- ・配偶者同行休業新設に関わる様式等の変更
- ・退職手当の様式及び提出書類の変更
- ・宿泊料に関わる旅費の調整についての一部改正

第3巻

- ・互助会指定宿泊施設の追加・削除

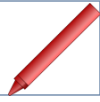
第4巻

- ・平成26年給与勧告等の概要
- ・J R等運賃の改定
- ・学校別陸路料程運賃表の改定

北海道学校実務要覧様式集 編集内容

- ・配偶者同行休業制度関係の様式
- ・部活動に係る大会等の業務に従事する場合の職専免承認について(協議)
- ・家賃等の額に関する証明書
- ・賃貸借契約証明書及び家賃納付証明書
- ・契約解除証明書及び最終家賃納付証明書
- ・勤勉手当支給調書
- ・退職手当調書
- ・勤務状況に関する資料

北実コラム



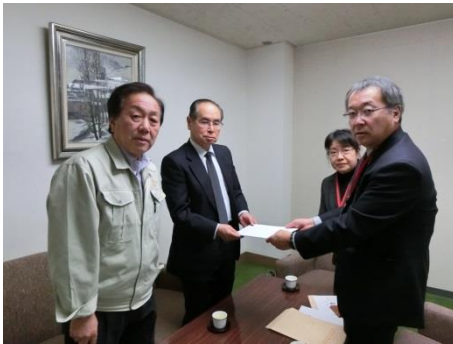
北実編集委員会の1日は、編集委員長の元気な「おはようございます」から始まります。その後、会長挨拶、事務局長連絡、1日の動向確認をして各巻のエキスパート達の編集が始まります。事前に持ってきた法令や通達等の

資料を基に原本の加除修正を赤ペン、ゴム印で訂正していきますが、細かい決まりがあつて、訂正だけでも大変な作業です。また、PCが普及したこの時代にハサミで関係部分を切り取って貼ったり、手書きで文章を修正していきます。初めて編集に参加した私などはこの決まりを覚えるだけで精一杯でした(これは、北実委員オリジナルの苦勞なんですね)。

編集最終日は、全巻回覧して修正箇所に戻りがないか、編集委員全員でアラ探しが始まります。「ここ違うよ～」・「エッ、エエ～」等と、殺気が漂いながらも和やかに進められていきます。最終的には、代表2名が東京へ赴き編集校正の最終確認を(株)ぎょうせい担当職員と行い、製版となるようです。

今回、編集委員として参加して思ったことは、委員皆さんの豊富な知識は言うまでもありませんが、「給与・服務」を含め、初めて聞くことも多々あり、編集委員が言うのも変ですが大変勉強になりました。

また、普段現場で1人の事務職員が複数の事務職員と共に日常出された実務的な疑問を話し合えるという有意義な3日間でもありました。
(チーム北実 K)



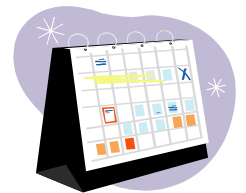
道教委・道議会へ要望書提出する

10月24日と29日に協議会を代表して、道教委や道議会等関係機関に要望書を提出しました。

内容及び道教委回答につきましては、1月に開催します評議員研修会にて報告します。

本部の動き

11月20日	第4回役員研修会	札幌市
11月21日	全道研修担当者研修会	札幌市
12月4～5日	第1回職務検討委員会	札幌市
12月4～5日	第1回メディア委員会	札幌市
12月18日	要望書に対する道教委回答受領	札幌市



あしがき

いろいろな人と話をしていると、全道研はこれからずっと札幌のホテルライフオートで開催すると思ってる人が多いですが、それは間違いです。ホテルライフオートで開催する全道研は、69回までは来年1回のみです。そして70回以降開催地決定の際にホテルライフオートで開催したいという支部が立候補してくれば、今後開催するかもしれません。いざれにせよ、来年開催以降しばらく、ホテルライフオートでの開催はないです。

この一件で、なかなか物事を伝えていく、思いが人に伝わっていくという事は難しいと感じました。来年の全道研はホテルライフオートでの開催というハード面も変わりますが、分科会構成やらのソフト面も変わっていきます。その辺もきちんと伝えていかなくてはならないと思いました。
(邦)

